



奈良町にぎわい通信

Vol.2

二〇一五・六月号

発行
奈良町
にぎわいの家



5月イベント & 来館のにぎわいから



広報スタッフ、NHKで告知

二十四節気講座
～夏の暦の言葉を

二十四節気と七十二候

～それは、めぐる季節を美しい言葉で編み直すこと

倉橋みどり(俳人・NPO法人文化創造アルカ代表)

旧暦には「旧」という文字のせいでしょうか、現在の暦より「古くさい暦」「廃れてしまった暦」というイメージをお持ちの方もいるかもしれません。実は、旧暦(太陰太陽暦)から新暦(太陽暦)に変わったのは明治6年、時の政府が主に欧米諸国との外交をスムーズに行うために改暦したため、流行り廃りによるものではありません。さらに、季節の移り変わりを太陽と地球との位置関係から読み取ろうとする点では新旧の暦に差はありません。

さて、季節といえば、「四季」は約3か月ごとに変わりますが、耕作や狩猟など自然とうまく付き合いながら生活していた時代には、さらにこまかく季節のめぐりを把握する必要がありました。そこで活用されていたのが1年を24に分けた「二十四節気」であり、72に分けた「七十二候」です。

二十四節気の場合、約15日ごとに、七十二候の場合、約5日ごとに、季節が移り変わっていきます。例えば、夏のうちに、立夏、夏至、大暑などの6つの二十四節気が含まれ、鷹乃学習(たかすなわちがくしゅうす)とか、半夏生(はんげしょうず)など18もの七十二候がめぐっていきます。二十四節気や七十二候について知り、意識し始めると、先人たちが、身の回りにある動植物や空、風のささやかな変化をも見逃すことなく、しかもとても美しい言葉に仕立て、読み取り、暮らしに役立ててきたことに感動します。暦は、豊かな自然と先人の知恵とで作り上げられてきた美しい織物なのだと思います。

(5/30開催・二十四節気講座、講師)

奈良町にぎわいの家では、二十四節気オリジナルスタンプと節気ごとの歌で皆様をお迎えします。

短歌...喜多隆子(歌人・ヤママユ編集委員)／書...遙香(奈良教育大学)

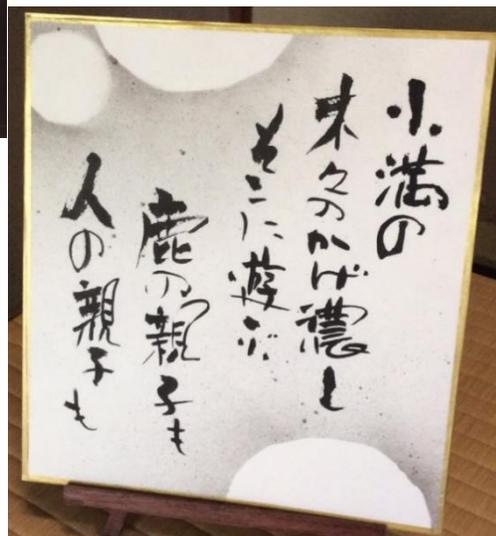


にぎわいの家スタッフの西村さんの義理のおばあさまは、大正生まれ。ミシン、鏡台、トランク、カメラなど、大切に使ってこられた懐かしい暮らしの品を入口すぐに展示しています。「わあ、懐かしい!」「うちにもあった!」お客様の声が聞こえてきます。

奈良町にぎわいの家
二十四節気
オリジナルマーク「小満」
デザイン・金田あおい



小満の木々のかけ濃しそこに遊ぶ
鹿の親子も人の親子も
緑の匂いに満ち、生きものの成長が著しい小満のころ、木々の緑も濃く、木陰も濃い、その緑の木陰に、鹿の親子が遊び、人の親子の姿もある。涼しい木陰に鹿も人も、親子で遊ぶ風景。自然の生長の熱気は、若い力に満ちた、子どもの姿にも重なる。鹿も人もと歌った、温かいまなざしに満ちたお歌です。



未来への「家」となるために

事務局長 藤野正文

私たちは、特に戦後、日本人が忘れつつある「自然を大切に」して、自然とともに生きてきた、これまでの日本人の暮らしを振り返ることが、今後の日本にとっても重要なことではないのでしょうか？
こういったことは、今の四十代以下の若い人たちはほとんど知らないんですね。大都市では、季節感のない、床の間もない、畳も冷暖房完備のマンション住まいですね。グローバル化・国際化の中でも日本人自らのアイデンティティが問われている時代でもあります。

これからの私たちの暮らし・ライフスタイルを創造する、住まう人や訪れる人を育てる、観光客にも新たな発見を与える、つまりインキュベーターする装置としての役割が、奈良町にはあると考えています。

私たちは、この建物「奈良町にぎわいの家」をその拠点にしていきたいと考えています。少し分かりやすくいえば、「季節を親しむ場」、「若い感性と伝統文化など古いものが誰にも親しめる身近な場」、「次世代の奈良町びとや、奈良町ファンを育てる場」にしたいと思っています。実施する事業内容も、単に伝統的な行事を再現するのではなく、伝統的な文化をベースとしながら、実験的な試みを行っていきたくて考えています。

現代の日本人、現在の若者が忘れつつある、これまで育んできた暮らしや生活の文化、エコロジカルな生活の価値を再発見し、再興する。奈良のこれからのラ

イフスタイルを提案し、日本の生活文化を大切に思い、自然を大切にして、自然とともに生き、自然を楽しみ、エコロジカルな生活をいとなむ未来の「ならびと」を増やしていければと考えています。

そのライフスタイルは、世界に奈良を発信できるツールになるのではないかと？産業の振興にも役立つのではないかと？奈良町をさらに好きになるファンが生まれるのでは？ そのファンが世界中に広がるのでは？ そんな夢を見ています。

いまは、スタッフが、試行錯誤で取り組んでおります。さらに多くの人の衆知を集めて議論する必要もあります。本当の意味での真価を発揮するのは数年かかるかもしれませんが、みなさまのご理解、支援やご協力を得ながら、この「にぎわいの家」を奈良町のライフスタイルを提案する拠点として、じっくりと育てていきたいと思っております。

初めての「おくどさん体験」企画

かまど企画担当 西村智恵

第1回おくどさん体験(6/5)無事終了しました！6名の参加となりました。かまど御飯に、新玉葱やスナツプえんどうなど、季節の野菜のお味噌汁。初めてのおくどさん体験の方は、パチパチ火が燃え始める音、火力が強くなった時のゴーツという音、火吹き竹を吹いた時にふつと立ち上がる赤い色、どれも新鮮で、皆さん喜んでくださいました。

昔、子どもの頃に経験されていた方は、「よく燃えるように、空気の通りがよくなるよう、木の入れ方を工夫したな。」と当時のことを懐かしく思い出されていきました。

一般の見学の方も、私たちのかまどの作業を見ながら、「昔、煙突掃除屋さんがいてね・・・」とお話くださいました。かまどがどの家にもあった時代の仕事を改めて知りました。

参加いただいた皆さんは、代わりばんこに薪をくべ、火を吹き、わいわい話ながら、怪我や事故もなく楽しくおくどさん体験を終えました。

できあがったご飯は、おこげはできなかったのですが、「おいしい〜！」と歓声を上げながら、皆で一緒にいただきました！皆さんもぜひ、ご参加ください。



こちらは
お味噌汁。
↓

↑
美味しく
炊けました！

火消し壺に入れます。

「いただきます！」作って食べるにぎわいの場。



イベント、講座情報は、ホームページ、フェイスブックからご覧になれます。是非、ご参加ください。

奈良町にぎわい通信vol.2

制作...奈良町にぎわいの家管理共同体
発行人...二十軒起夫
編集・構成...おの・こまち
レイアウトデザイン・写真...福田昭一
撮影協力...羽原あき子

〒630-8333 奈良市中新屋町5

TEL 0742-20-1917

nigiwainoie@gmail.com

http://naramachi-nigiwainoie.jp/